

新学習指導要領での小学校外国語教育に向けて

山形県教育庁義務教育課

平成 29 年 3 月 31 日に新学習指導要領が告示されました。平成 30 年度、31 年度は移行期間となり、いよいよ平成 32 年度から新学習指導要領による英語教育が全面実施となります。これからの英語教育に対する正しい知識と理解のもと、各学校で着実に準備を進め、子どもたちのコミュニケーション能力を育成していきましょう。

今年度中に、これだけは！

3、4 年生の外国語活動は、5、6 年生でやってきたことと同じことをすればいいのですか？
5、6 年生の外国語は、中学校の内容が前倒しになるのでしょうか？

1 新学習指導要領の趣旨を正しく理解しましょう

平成 30 年度は 3～6 年生の総授業時数が最低でも 15 時間増えることとなります。どのように時間を確保しますか？とりあえず来年度のことを考えておけば大丈夫ですか？

2 移行措置の内容を確認し、教育課程の編成をしましょう

移行期間は現行の学習指導要領に加えて新学習指導要領の内容も扱わなければなりません。
“Hi, friends!” と新教材 “We Can!” を、どのように組み合わせれば良いのでしょうか？

3 新教材を活用し、年間指導計画を立てましょう

高学年の担任をした経験が少なく、これまでに外国語活動の授業をあまりしたことがありません。英語も得意ではないし、正直言って不安です。

4 校内研修を実施し、授業のイメージを持ちましょう

隣の小学校では来年度から先行実施をするようです。中学校に進んだ時に私たちの学校の子どもたちと一緒に学習するのに、大丈夫でしょうか。中学校でなんとかしてくれますか？

5 中学校区内で連携し、到達目標を共有しましょう



このリーフレットには、上に挙げた 5 つの項目を中心に、来年度からの移行期間を迎えるに当たって、「これだけは」と考えられるポイントをまとめています。当然のことながら、この紙面に収まりきれない、大切な情報もたくさんありますが、まずはこの 5 つのポイントをきっかけとして、来年度からの準備を進めていきましょう。

小学校 外国語活動

3・4年生

＜目標＞

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

○「聞くこと」「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」の3領域を扱う

○実際に英語を用いた活動を通して、次の事項を体験的に身に付ける

- ・言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること
- ・日本と外国の言語や文化について理解すること
(英語の音声やリズムなどへの慣れ親しみ、言葉の面白さや豊かさへの気付き)

目標や内容はこれまでの外国語活動と同様ですが、子どもの発達段階に合わせる工夫が必要です

小学校 外国語

5・6年生

＜目標＞

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

○「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域を扱う

→読むこと ・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする
・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味がわかるようにする

→書くこと ・大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする
・語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする
・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする

○外国語活動で扱った基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る

小学校の外国語は中学校の前倒しではなく、小学校だからこそできる新しい教科です。

2 移行措置の内容（平成30・31年度）～移行措置の内容を確認し、教育課程の編成をしましょう～

新学習指導要領の外国語活動及び外国語科の内容の一部を加えて必ず取り扱います。

3、4年生 15時間の外国語活動を実施

総授業時数 15時間増

＜必ず取り扱う内容＞

- 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむこと
- 日本語と英語の違いを知り、言語の面白さや豊かさに気付くこと
- 聞くこと及び話すことの言語活動の一部

5、6年生 現行の外国語活動に外国語科の内容の一部を加えて実施

総授業時数 15時間増

＜必ず取り扱う内容＞

- 基本的な語や句、文の発音やイントネーション
- 活字体の大文字、小文字
- 代名詞のうち I, you, he, she
- 動名詞や過去形のうち活用頻度の高い基本的なもの
- 文構造（主語＋動詞、主語＋be 動詞＋名詞 / 代名詞 / 形容詞、主語＋動詞＋名詞 / 代名詞）
- 読むこと及び書くことの言語活動の一部

【教材】文科省から H29 年度中に、現行学習指導要領及び新学習指導要領の内容に係る教材が配付されます。（新教材等は、作成されたものからダウンロードできるようになっています。）

【評価】移行期間中の5、6年生については、数値による学習評価は行わず、指導要録には現在と同様に文章で記述することになります。

【授業時数】授業時数の特例として、年間総授業時数及び総合的な学習の時間の授業時数から15時間を超えない範囲で外国語活動の授業時数にあてることが出来ます。（移行期間のみの措置です）

□移行期間及び全面実施の際の授業時数の確保について計画する

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】



① 年間35時間増加する授業時数の確保

【例1】短時間学習の活用 … ○15分や60分など柔軟な時間取りが可能

▲学校全体での授業時数の管理体制が必要

【例2】週時間割に45分の1コマを増加 … ○毎日の生活や学習のリズムを維持

▲放課後の会議や地域活動との調整が必要

短時間学習は、年間35単位時間を超える部分について実施可能です。

② 移行期間中の各学年の授業時数を計画する

- ・「移行措置」として、最低でも3、4年生で15時間、5、6年生で50時間を確保することが必要です。

平成32年度の全面実施以降、どのように時間を確保するかを見通したうえで、保護者や地域の理解も得ながら年間の授業時数や週時程などを計画的に移行していきましょう。

【参考】○「小学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議 報告書」（平成29年2月に、市町村教育委員会を通して各学校に送付されています。）

○このリーフレットの最後のページに「付録」として5、6年生用の新教材”We Can!”の特徴についてまとめてあります。

3 年間指導計画の作成

～新教材を活用し、年間指導計画を立てましょう～

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
小学校		移行期間		全面实施			
中学校		移行期間			全面实施		
高校						全面实施	2022年度の高1から 年次進行で実施
平成17年度生まれ	小6	中1	中2	中3	高1	高2	すべて旧課程
平成18年度生まれ	小5	小6 (+15→50時間)	中1	中2	中3	高1	
平成19年度生まれ	小4	小5 (+15→50時間)	小6 (+15→50時間)	中1	中2	中3	
平成20年度生まれ	小3	小4 (+15時間)	小5 (+15→50時間)	小6 (70時間)	中1	中2	
平成21年度生まれ	小2	小3 (+15時間)	小4 (+15時間)	小5 (70時間)	小6 (70時間)	中1	
平成22年度生まれ	小1	小2	小3 (+15時間)	小4 (35時間)	小5 (70時間)	小6 (70時間)	
平成23年度生まれ	年長	小1	小2	小3 (35時間)	小4 (35時間)	小5 (70時間)	小3から新課程

文部科学省から教材を配付
5、6年生は教科書を使用

平成18年度生まれから平成22年度生まれの児童生徒については、現行教育課程と新教育課程が混在することになるため、学習内容の増加分について特に注意が必要です。

□年間指導計画作成の留意点

平成30年度の2年生から6年生は、全面实施の際に学習に不都合が生じないよう、各学年での学習内容等に配慮する必要があります。ここでは平成30年度の各学年の配慮事項についてまとめます。

- 【3年生】→小学校5年生で全面实施を迎える学年です。新教材をもとに、移行期間（3、4年生）で外国語活動の内容を網羅することが必要です。
- 【4年生】→小学校6年生で全面实施を迎える学年です。移行期間（4、5年生）で5年生までの内容を学習する必要があるため、4年生の1年間で外国語活動の移行措置の内容を網羅することが必要です。
- 【5年生】→中学2年生から新学習指導要領による学習をする学年です。移行期間（5、6年生）では現行の外国語活動に内容に加え、最低でも移行措置の内容を実施しておくことが必要です。
- 【6年生】→中学3年生で新学習指導要領による学習をする学年です。6年生の1年間で教科としての外国語の移行措置の内容を網羅する必要があります。

文部科学省から、移行期間中の年間指導計画の例が示されています(*)。新教材の内容と照らし合わせながら、各校で実施する授業時数に合わせて年間の計画を立てましょう。中学校区内で必ず小中連携をし、児童生徒の学習が円滑に進むように配慮してください。

【参考】「新学習指導要領対応小学校外国語教材」(H29 9月ダウンロードについて通知)

*年間計画の例は、各教育事務所から市町村教育委員会に提供されています。

<http://mext-next-kyozai.net/> (ダウンロードにはIDとパスワードが必要です)

4 校内研修の充実のために

～校内研修を実施し、授業のイメージを持ちましょう～

○外国語活動の授業を参観しましょう

現在の外国語活動の授業を充実させることが、新学習指導要領での外国語教育につながります。まずは校内で外国語活動の授業研究をすすめ、授業のイメージを共有しましょう。

○「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」を活用し、学習指導要領の理解を進めましょう

新学習指導要領の内容が具体的にまとめられています。必要な項目から2～3ページを取り出し、校内で読み合って理解を共有するなど、短時間での研修にも活用できます。

各校の中核教員（英語指導力向上セミナー参加者）を中心に研修を進めましょう。

主な内容

【基本編】小学校外国語教育の「基本理念」「目標」「内容」「言語活動」「評価」

【授業研究編】単元指導計画や指導案の解説・立案上の留意点

I：外国語活動（3・4年生）、II：外国語科（5・6年生）の指導例

【実践編】年間指導計画の立案、授業の進め方、ティーム・ティーチングの進め方、様々な活動を行う際の注意事項

【実習編】クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの打合せに必要な基本英会話、外国語科で導入される Small Talk の例、英語を発音・発話する際の留意点、スキル別能力向上策 など（音声資料あり）

【理論編】児童期の第二言語の学びの特徴、主体的・対話的で深い学びの小学校外国語教育での在り方、外国語活動と外国語科の連携の在り方

【研修指導者編】5つの県・市・学校の研修事例

【巻末資料】学習指導要領や新教材で取り扱われる語彙や表現例

【参考】「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（H29 7月データ配信）

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

※「評価」等については、今後内容が追加される予定です。

5 小中の接続を意識しての 小小連携・小中連携

～中学校区内で到達目標を共有しましょう～

<小中連携チェックリスト>

- 進学先の中学校の英語の授業を参観したことがありますか？
- 進学先の中学校の英語の先生は小学校の外国語活動の授業参観したことがありますか？
- 同じ中学校区の小学校の外国語活動の授業を参観したことがありますか？
- 同じ中学校区の小中学校で外国語の授業について一緒に研修したことがありますか？
- 小中学校で、お互いの年間計画や学習到達目標を共有していますか？

特に移行期間は学区内の連携が重要です。年間計画や学習到達目標（CAN-DO リスト）を共有し、中学校入学時に子どもたちが小学校で学んだことをいかして、自信を持ってスムーズに学習がスタートできるよう、連携していきましょう。

新学習指導要領対応小学校外国語教材 We Can! の特色

1 子どもの興味・関心に合う題材の設定

※児童の日常生活に合わせた単元の配列

5年生：Unit 5・・・小学校3、4年生ではI(私)とyou(あなた)だけの世界。私とあなた以外の第三者についても表現したい → he、she を導入

6年生：Unit 5・・・夏休み明け、夏休みにやったことを話したい → 過去形の導入

Unit 7・・・12月ごろ、文集作りの時期6年間の思い出を話したい → 過去形

2 場面設定から使われている語句や表現の意味を推測し、語句や表現に出会わせる活動の設定

3 映像資料を視聴して考える活動の設定

Let's Watch and Think

- ・聞いた英語を全部分かることは求めない。分かる言葉を拾う程度でよい。
- ・英語を勉強したら、こんな英語も分かるようになる、という期待を持たせる。

4 既習語句や表現を繰り返し活用する活動の設定

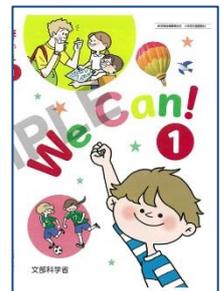
Small Talk

対話の続け方を身に付ける活動の設定

5年生：子どもとインタラクションをしながら、教員が中心になって話す

6年生：子ども同士でのやり取りにつなげる

(やり取りの中で言えなかった英語を確認し(思い出し)、共有する)



5 言いたいことを表現できるような学習内容の設定

■三人称が主語の表現…can の使用により、3単現のSの使用を回避。

※読み書きがなく、音声中心の中では3単現のSは難しい

※場面設定の中で意味を推測し、使ってみてわかっていく活動

■過去形…限られた数の不規則動詞の使用。went、ate、saw、was、enjoyed

※読み書きがなく、音声中心の中では規則動詞は難しい

※過去形の疑問文、否定文は扱わない

■動名詞…I'm good at ~ing. (~が得意です)のみの扱い



6 細かなステップを踏んだ、読む、書く活動の設定

7 ゆっくり読んだり書いたりする活動の設定

8 読んだり書いたりする必然性のある活動の設定

Let's Read and Write
Let's Read and Watch
Sounds and Letters

○5年生のはじめの30時間(Unit1~4)でできるようにすること

- ①4線に文字を書くことができる
- ②文字を見て発音する(読む)ことができる
- ③文字を識別することができる

○Unit5～ 単語から表現に段階的に指導

▲初めて触れる言葉をいきなり文字にしたりはしない

・まずは何度も聞いたり言ったりした英語を書き写すことから…

→気付きを促す 単語と単語の間にはスペースがある

I や You の後には動作の言葉が来る→語順への気付き

9 読むことに慣れる、自分で読むようになる活動の設定

Story Time

5年生：Unit1~9のStory Timeをつなげると、一つのストーリーになっている

6年生：Unitごとに読み切り 韻をふんでいる